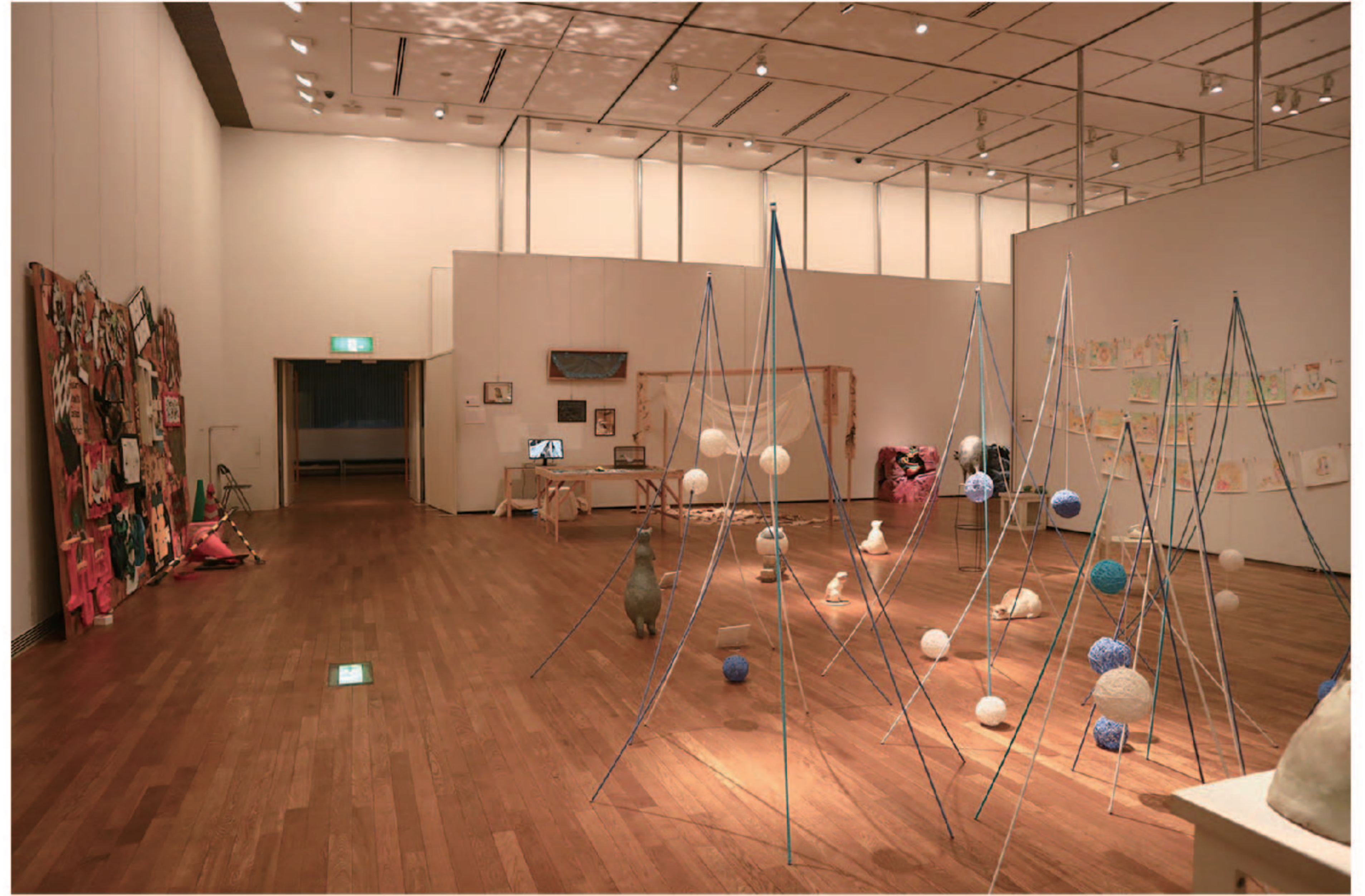




EXHIBITION









**FROM
PROFESSORS**



絵画

占部 史人

Urabe Fumito

まずはご修了・ご卒業おめでとうございます。私が本学に赴任した昨年の4月からまだ一年も経っていませんが、共に制作する日々を過ごす中で沢山の刺激を皆さんから受けました。初めて関わった卒業・修了制作展が瑞々しく、とても元気の良い展示になり嬉しく思っています。

最後に、かつて私がドローイングした古い本の切れ端に偶然書いてあった言葉、そしてそれ以降いつも制作する時に大切にしている言葉を贈ります。

Ars longa, vita brevis (芸術は長く、人生は短い)

それでは、これからも静岡大学で美術を学んだことを誇りに羽ばたいて行って下さい！



彫刻

名倉 達了

Nagura Tatsunori

彫刻研究室6名の作品は例年と比較してバラエティに富んだ内容となりました。これは考えれば考えるほどに不自由な「彫刻」という時間のかかるメディアをあえて選択し、各自が粘り強くテーマや課題と向き合い、表現方法を模索した結果だと思えます。いずれの作品もまだまだ検討の余地はありますが、無垢で危うい作者の眼差しがはっきりと現れています。そして、イメージと材料の狭間で身体を通して世界を見つめ、自分だけの方法で大切な何かを「かたち」として現す「彫刻」の不可思議な魅力も初々しく示されているといえるでしょう。



デザイン

伊藤 文彦

Ito Fumihiko

今年のデザインは、アプリやブランディングなど、より「コト」化が進む一方で、原点に回帰するような「モノ」にこだわったプロダクトやグラフィックの作品も混在し、デザインの多様性が感じられた卒業制作でした。その何れもが、今日のキーワードにもなっている「ウェルビーイング」(well-being)を志向する流れが感じられました。「励ましの新しい仕組み」「豊かに文章を読むこと」「幸せとは何かの思考実験」「気持ち活性化される設備と空間」「家族と仕事への眼差し」…時代の潮流に適応したデザインのチカラが発揮されていたことを嬉しく思います。



デザイン

川原崎 知洋

Kawarasaki Tomohiro

デザイン研究室の卒業制作は「ものごとの原理原則を再解釈したデザイン提案」と「既にある事実をリフレーミングしたデザイン提案」という大きな2つの傾向があったように思います。個々の卒業制作のテーマを決める際には、自分のやりたいことをテーマにするだけでなく、研究室のメンバーのアドバイスや助言に耳を傾け、これからの社会に必要なことを問い続けながら取り組む姿が印象的でした。また、再解釈したことやリフレーミングしたことを誰もが分かりやすく理解できるように表現できたと思います。

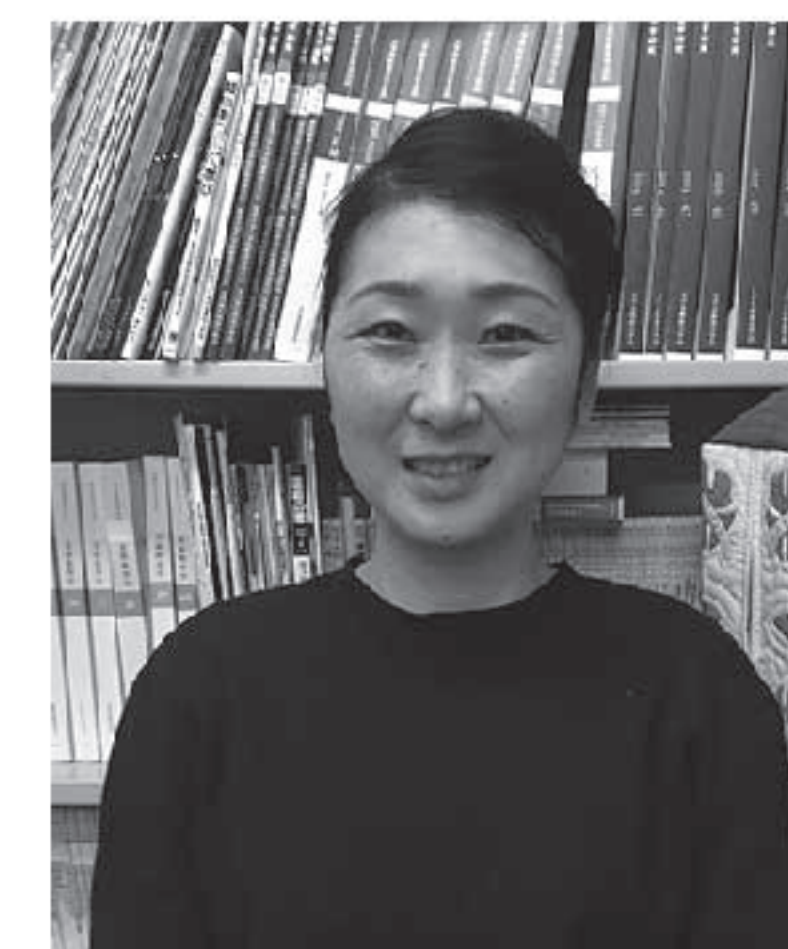


美術科教育

芳賀 正之

Haga Masayuki

令和となって最初の「卒業・修了制作展」は、美術教育専修と地域創造学環のアート&マネジメントコースによる初の展覧会（共同開催）です。6階の展示ギャラリーには、一人一人の個性があふれる作品がたくさん並び、見に来てくださった方々を楽しませてくれました。それぞれが研究の成果を見て頂く機会にもなりましたが、特に論文系の学生たちも全員がパネルや作品などを展示し、さらにグランシップの会場を使って、はじめて大学の外で論文発表会を行いました。外部の方からの質問や意見も出て、有意義な会になったと思っております。



美術科教育

高橋 智子

Takahashi Tomoko

卒業・修了制作展や卒論発表会では、各領域の個性豊かな表現や思考過程を見ることができました。美術科教育のゼミでは、図画工作科や美術科が抱えている課題を子どもや教員の実態及び自身の経験から紐解き、研究テーマを探り深めてきました。事実を見つめること、課題を見つけること、問題意識を持つこと、解決方法を探ることは一体的なものであり、それぞれの繋がりを意識して取り組むことができました。完成した論文（もの）だけでなく、論文を執筆する過程で身につけた力は、今後、大切な財産になると感じています。



造形芸術学
大宮 康男
Omiya Yasuo

今回の卒業制作展は今までは、教員養成課程美術教育専修と美術・デザイン課程が合同でしてきた展示とは違って新しく設けられた地域創造学環の A&M との合同の第一回目でした。

我々教員側としてもどのような展示になるのか少々不安であったが、以前にもまして劣らない充実した内容となり、感動した次第です。

特に感動したことは搬入、準備の時に美術教育と学環 A&M がおそらく事前に入念に打ち合わせをした結果、協力し合いながら仲良く作業に専念できたことでしょうか。また、展示は平面と立体が程よく調和してバランスのとれた展示となったことでした。

しいて言えば、昨年度より人数が減ってしまいましたので、展示室が一部屋少なくなったのが、残念ではありましたが。



アートマネジメント
井原 麗奈
Ihara Rena

私は作品ではなく、マネジメントの側面から講評致します。搬入、搬出の段取りもきちんと組まれていましたし、現場での展示場所の変更にも臨機応変に対応する努力をしていたと思います。手の空いた人が他の人の展示を手伝ったりするなどの協力も見えました。後輩への指示も的確で、感謝の気持ちも明確に表していた点良かったと思います。現場に入ると当初の想定とは違ったことも多かったと思います。今後も展覧会及び論文発表会がスムーズに運営されるよう、反省点は後輩のために引き継ぎのメモを残すなどしてください。卒業おめでとう。



絵画
白井 嘉尚
Shirai Yoshihisa

卒業制作とは美術実技系での修学の証です。外部から見ると、そこからカリキュラムを貫く理念や、学生の取り組みの質が垣間見えるのではないのでしょうか。作品群を見てまず感じるのは多様性です。一人ひとりが、思い思いのテーマを、様々な方法で追究しています。作品は3年次までの授業レベルを超えて、それぞれ、テーマの深掘りを始めているようです。欲をいえば、もっともっと、制作への熱量を見せてほしいし、追究の果ての跳躍を感じたい、、、卒業は新たな門出です。これからも出会いを力とし、かけがえのない時をお過ごしください。



漆畑 雅子

Urushibata Masako

これまでの軌跡がひとつの形となり、見応えのある素晴らしい卒業・修了制作展でした。自身と向き合い、闘い抜いた結果である作品は、一人一人の個性が溢れ、まさに現代の若者を映す鏡でもあり、とても興味深く観ることができました。特に、作品を通しての学生との対話では、着眼点をはじめ、イメージやアイデアを形にする手法や過程に感心させられ、大変刺激を受けました。この制作展での経験は、これからの人生において大いに役立つことでしょう。今後のご健闘をお祈りします。